

劇団希望舞台

しゃかないひつぎうた

釈迦内枢唄

作 水上勉

演出 米倉 齊加年

コスモス画・荒木 幸史 題字・武田 昭龍

花は死んだものの顔だでや...



ふじ子・有馬 理恵

津山市公演

6月16日(土) 開演 14:00 津山文化センター
お問合せ・優しい時間 (喫茶店) tel.0868-22-4871

企画・由井 數 演出助手・上野 日呂登 音楽・川本 哲 美術・福永 朝子 照明・高橋 康孝 効果・余田 崇徳 劇場制作・玉井 徳子

とき 2012年 6月17日(日) 開場 13:30 開演 14:00 (終演 15:40)

ところ 岡山市立市民文化ホール 一般 3,000円 学生 1,500円 / 全席自由
電話 086-273-0395 (路面電車 東山行き「小橋」停留所を下車、徒歩1分)

- 主催 ルートの会 主管「釈迦内枢唄」岡山公演実行委員会
- 後援 岡山市・岡山市教育委員会・岡山市仏教会・山陽新聞社・朝日新聞岡山総局
読売新聞岡山支局・毎日新聞岡山支局・NHK岡山放送局・RSK山陽放送
OHK岡山放送・TSCテレビせとうち・KSB瀬戸内海放送・RNC西日本放送
- 推薦 全日本仏教会

チケット取扱・「きんざやプレイガイド」 お問合せ・TEL 086-233-1731



伊藤 浩司 和田 緑郎 福嶋 愛美 中嶋 みくり 荻原 ゆかり 助川 汎 富田 祐一

有馬 理恵
 高校時代に浅利香津代主演「釈迦内枢唄」を観て衝撃を受け、演劇の道へ。俳優座研究生を経て俳優座に人門。出演多数。1999年から希望舞台の「釈迦内枢唄」の舞台に立つ。



わけへだてなき優しさと勇氣
 時代に問いかける人間賛歌
 水上勉の世界

釈迦内は秋田県花岡鉾山が近くに
 あった在所の地名
 その地で代々つづいた死体焼き場

ふるえるような怒りの奥底に
 すがるようないのちの願いがあった

「サンガ」より

希望舞台の仕事

職業劇団です。
 希望舞台の創

父・弥太郎が死んだ日、ふじ子は父親を焼くカマの掃除をしました。ふじ子の胸に、さまざま家族の思い出がよみがえります。二人の姉のこと、母親のこと、花岡鉾山から逃げてきた崔さんのこと、そして憲兵に殺された崔さんを焼かなければならなかった日のことなど……。

コスモス畑をめぐってくる馬車の鈴の音。いつもは棺桶を運んでくる馬車が、今日は姉さんたちを乗せてくる。家を離れて遠くに暮らす姉たちが帰ってくるのだ。父を弔うために……。

2001年長野市公演を観劇してくださった水上勉さん。楽屋で出演者たちに「日本人がしなければならない仕事」と言葉を確認するように語られ、「全国千回公演を目指して下さい」と励ましを頂きました。



千回公演を目指して

「釈迦内町の火葬場」は創作上の設定—
 釈迦内は昭和23~26年、岡田町と大館市に合併。
 当時、火葬場は和南郡にしか存在しない。舞台に出てくる火葬場は創作上の設定。

舞台上使用される用語と秋田県の方言

- わ(吾) 私、わたし、俺
 - おど(お父) お父さん、父親
 - おが(お母) お母さん、母親
 - まま食う ご飯を食べる
 - じえんこ 銭っこ、お金
 - わらし 子供
 - がんおけ 棺桶、かんおけ
 - あねご 姉さん、おねえさん
- オンボ(隠亡) —
 人の遺骸の埋葬(土の中に埋める)や火葬を職業にしている人。
 死の扱いは本来、尊ばれる仕事でもあるにも関わらず、日本では古来から死を穢れ忌み嫌う結果、死体を扱う人を全く逆の差別的に呼ぶ言葉となった。

私たちは、誰にでも親しまれる「現代の芝居」を求めています。公演に必要なすべての仕事を劇団員全員で協力してやっています。

立は一九八五年、統一劇団創立二〇周年を期に分離独立。この間、「ピアニストとカラス」青い空が見えるまで、ミュージカル「あした天気になれ」、井上ひさしの名作「雪やこんこん」などをもって全国を巡演し、一九九九年より「釈迦内枢唄」、翌年より「おばあちゃん」を公演。いずれの作品も、時代にとりのこされ、新しい生き方を迫られる人々や、その家族の側から、現代の新しいふるさとを描いてきました。

「芝居(演劇)は希望を語ること。今を生きている人々の身近なところで息づいていく。そんな仕事をめざしています。

